

[別紙2]

審査の結果の要旨

氏名 長田由紀子

本研究は、これまでに十分な研究が行われていない更年期の心理的側面を取り上げ、更年期の適応状態に影響を与える心理・社会的要因を明らかにしようとした研究である。更年期にあたる一般の女性 597 名を対象に行った調査結果をもとに、閉経前、閉経周辺、閉経後別に適応状態を比較し、更年期症状の影響をふまえた上で、抑うつ症状に対する心理・社会的要因の影響について検討し、下記の結果を得ている。

1. 更年期に関する意識については、更年期に対する危機感においても自身の閉経に対する評価においても、閉経前群および閉経周辺群と閉経後群との間には有意な差が見られ、閉経後群により肯定的な評価傾向が示された。
2. 更年期の適応状態を示す抑うつ症状、更年期症状については、閉経周辺群および閉経後群と閉経前群との間に有意な差が見られ、他の 2 群に比べて閉経前群の心身の適応状態は良い傾向が示された。
3. 閉経過程による群別に変数間の関係を検討した結果、いずれの群においても抑うつ症状、更年期症状、更年期に対する危機感との間には正の有意な相関関係が見られ、さらに抑うつ症状は、自己効力感や夫婦関係満足度をはじめとするのいくつかの心理変数との間に関係が見られた。
4. 抑うつ症状を従属変数とし、更年期症状、心理変数という順序で説明変数を投入する階層的重回帰分析を行った結果、抑うつ症状に対する更年期症状の影響は明らかであったが、いずれの群においても心理変数を投入することによって決定係数の有意な上昇が見られた。その結果、閉経前群では、更年期症状の重いこと、夫婦関係満足度の低いこと、老年期イメージが暗いことが、抑うつ症状を高めていた。また閉経周辺群では、更

年期症状の重いこと、夫婦関係満足度の低いこと、自己効力感の低いこと、老年期イメージが暗いことが、抑うつ症状を高めていた。さらに閉経後群では、自己効力感の低いこと、更年期症状の重いこと、夫婦関係満足度の低いことが、それぞれ抑うつ症状を高めていた。

更年期の心理的側面に関する実証的な研究は少ないが、更年期の抑うつ症状に影響を与える心理・社会的要因について、身体的要因を考慮した上で検討を行った研究はこれまでになかった。本研究は、閉経のプロセス別に適応と心理・社会的要因との関係を詳細に分析・検討し、更年期の健康増進に向けての教育・啓蒙において有用な情報をもたらしたと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。